



(写真) レミヒオ・セバジョス内務司法平和相 X “アラグア州 トコロン刑務所の内情を紹介”

トコロン刑務所の内情

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

2 023年9月20日 マドゥロ政権は軍人・警察官ら約1.1万人を動員し、アラグア州のトコロン刑務所を占拠した。

同刑務所は、国際的な巨大犯罪組織「トレン・デ・アラグア」の拠点で、トコロン刑務所を起点に多くの犯罪が行われていたという。

本稿では、占拠される前のトコロン刑務所の内情と占拠後の現状、「トレン・デ・アラグア」とはどのような組織かについて紹介したい。

刑務所にプール・バー・動物園

「プリズン・ブレイク」など無法地帯のような刑務所を舞台にした海外ドラマは日本人にとってなじみ深いのではないだろうか。

筆者もそのような海外ドラマをいくつか見たことがあるが、ベネズエラの刑務所はまた別の意味での無法地帯感があるように思える。

マドゥロ政権がトコロン刑務所を占拠して以降、同刑務所の内情が報じられ始めた。その内容は、日本の常識では考えにくいような話ばかりである。

最初に占拠後のトコロン刑務所の写真をいくつか紹介したい。



(写真) EFE/ Miguel Gutiérrez



(写真) AFP / Yuri Cortez



(写真) @joseantonetti

日本でよく見る海外ドラマの刑務所は、囚人が看守の目を掻い潜って悪さをするが、ベネズエラの場合、囚人は看守の目を掻い潜ることなく、堂々と違法行為をしている。

写真はマドゥロ政権が占拠した後のものなので、汚れているが、子供用のアスレチック施設、プール、バー、レストラン（ステーキハウス）、動物園などがあることが確認できる。

なお、動物園にはフラミンゴ、ジャガー、トラ、サル、豚などがいたようだ。

また、1 ページ目の写真はトコロン刑務所の全体写真だが、左上に立派な野球場があることが確認できる。他にもバスケットボールコートなどもあり、刑務所内の生活はかなり恵まれていた印象を受ける。

一般の女性・子供が刑務所内で生活

しかもこの刑務所に住んでいたのは囚人だけではない。囚人の家族も刑務所の中で一緒に暮らし、刑務所の中で仕事をしていた。

クラウドディアという女性（27歳）は、トコロン刑務所で暮らしていたが、彼女は囚人ではなく、夫が囚人だったので一緒に暮らしていたという。

パトリシアという女性（24歳）も夫が殺人で刑務所に収容されたので、2022年からトコロン刑務所で暮らしており、刑務所で夫と一緒にお菓子を路上で販売して生計を立てていたという。

パトリシア氏は「刑務所の外で仕事をするよりも、刑務所の中で仕事をした方が稼げる」と語っていたという。

パトリシア氏によると、「看守に10ドルを支払えば、子供をトコロン刑務所の中に入場させることが出来る」と語っていたようだ。

9月25日 マドゥロ大統領は、「トコロン刑務所内には女性200人がイレギュラーに滞在しており、子供と一緒に暮らしていた」と言及。

トコロン刑務所は実質的に「トレン・デ・アラグア」が支配する1つの街になっていたことが理解できる。



（写真）トコロン刑務所の居住区

所内にはデジタル通貨のマイニング施設も

現在 トコロン刑務所はマドゥロ政権に占拠され、囚人は別の刑務所に移送され、刑務所内で暮らしていた一般人は退去させられた。



軍・警察は大量の銃器・銃弾を押収。大量のバイク、麻薬なども見つかり、デジタル通貨のマイニング施設もあったという。



（写真）内務司法平和省

数百名が脱走、92名を拘束

マドゥロ政権は、「トコロン刑務所の占拠は成功した」と主張しているが、実際は完全な成功とは言えない。

致命的な失敗は、「トレン・デ・アラグア」のリーダーであるエクトル・ゲレロ氏（通称ニーニョ・ゲレロ）が脱走したこと。

「トレン・デ・アラグア」は、今回の作戦に関する情報を事前に入手していたようで、数百名規模の脱走者が出ている。

現在、軍部・警察が脱走した囚人を捕まえるためのオペレーションを実行しており、9月24日時点で92名の脱走者が拘束されたという。

ただし、ゲレロ氏は現在も逃亡しており、既に外国に移動したと噂されている。



（写真）@ELESPINITO

現地メディア「Runrunes」によると、マドゥロ政権はゲレロ氏が外国に逃亡した可能性があるとして、「国際警察（インターポール）」にゲレロ氏の指名手配要請を出したという。

マドゥロ大統領は、「腐敗した一部の公務員が事前に作戦の情報を漏らした」と認め、「犯罪者は刑務所に行く。汚職者を特定し、法の裁きを受けさせる」と述べた。

また、内務司法省はゲレロ氏の情報提供を呼びかけ、拘束につながるような情報を提供した人物に対して、報奨金を支払うと発表した。ただし、報奨金の金額は発表されていない。

恐らくゲレロ氏の情報を提供した人物は命を狙われるリスクがある。そのリスクを冒してまで情報提供をする人物がどれほどいるのか個人的には疑問だ。

なお、「トコロン刑務所を占拠したことで「トレン・デ・アラグア」が解体されるのか」という点について、トレン・デ・アラグアの内情に詳しい専門家 Ronna Rísquez 氏は懐疑的な見方を示している。



（写真）内務司法平和省

労働組合がトレン・デ・アラグアの起源

そもそも「トレン・デ・アラグア」はどのように出来たグループなのだろうか？

ベネズエラ中央大学のルイス・イスキエル犯罪学教授によると、トレン・デ・アラグアは12～14年ほど前に出来たグループで元々は労働組合だったという。

労働組合の組合員は、建設事業者らと協力し、建設関連の仕事の斡旋を始めるようになり、その頃から「トレン・デ・アラグア」という名前が定着したようだ。

そして、トコロン刑務所に入ったゲレロ氏は元々刑務所にいた囚人などと犯罪組織としての活動を開始。元組合員を誘い勢力を拡大していったという。

他の国にも似たような刑務所が？

「トレン・デ・アラグア」は、ベネズエラに限らず、コロンビア・ペルー・ブラジル・エクアドル・チリなどにも勢力を拡大している。

ペルーメディア「El Comercio」によると、同国で「トレン・デ・アラグア」を仕切っているベネズエラ人エクトル・プリエト氏（通称 Mamut）は、ペルーの「Challapalca 刑務所」から犯罪を指示していると報じた。

程度の差こそあれ、他の国でもトコロン刑務所と似たような状況になっている刑務所はあるのかもしれない。

以上